



☆ 優秀作品表彰：県道灘三田線交通事故対策
神戸市建設局

間であった。

1 路線の概要

当該道路は、神戸市東部市街地と六甲山北側の流通団地や住宅団地を結ぶ、日交通量約1万7千台の幹線道路である。3車線化を実施した区間は、片側2車線、全幅20mで周辺団地開発等にあわせ、昭和42年に整備された。縦断勾配がきつくと、カーブも多いため市内でも有数の事故多発区

2 整備の考え方

今回の整備は、道路を拡幅するなど単に必要な機能を付加する従来型の発想を転換し、道路が持つ多様な機能を分析した上で、車線数を減少させて右折帯や中央帯を付加することにより、道路全体として安全性を向上させるという考え方で整備を行った。

3 整備内容

表-1 整備内容のまとめ

整備延長：L=1,550m

対策内容	対策の目的	実施箇所
車線構成の見直し (下り車線2車線→1車線)	・付加車線等下記対策実施のための空間捻出 ・走行速度の制御	全区間(下り車線)
高機能舗装(排水性)	・雨天時のスリップ事故の低減 ・騒音対策 ・追突事故の低減	全区間(下り車線)
右折レーンの設置	・交差点付近における追突事故、車線変更時の接触事故の防止	交差点部(2箇所)
バス停車帯の設置	・バス停付近における追突事故、車線変更時の接触事故の防止	バス停部(3箇所)
側方余裕幅の確保	・カーブ区間における路外逸脱事故の防止	カーブ区間

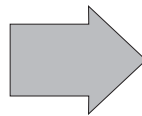
4 効果

今回の3車線化の施工以降、区間全体で人身事故が概ね3割減少した。また、通行しやすく、安全になったという沿道住民の意見が自治会報で掲載された。

交通状況に合わせ、車線構成を見直した今回の事業は、一定の効果をあげたと考えられ、今後、他の路線でも同様の取り組みを検討していくよう考えている。



工事前 事故多発地点



完成後 事故多発地点